

# 平成 27 年度第 2 回 伏見区基本計画推進区民会議 摘録

日時：平成 27 年 11 月 16 日（月）

午前 10 時～11 時 30 分

場所：伏見区総合庁舎 4 階中会議室

## 1 開会、久保伏見区長挨拶

朝晩の冷え込みが厳しく、秋も深まってきた。本日は平成 27 年度第 2 回伏見区基本計画推進区民会議に御出席いただき感謝申し上げます。また、橋爪座長並びに村井副座長をはじめ、皆様におかれては、日頃、伏見区政推進に広く御理解・御協力いただき感謝申し上げます。

さて、この間 9 月に市内の男子高校生が大麻取締法違反で逮捕され、今月は山科区の市立小学校の 6 年生の男児が大麻の吸引を担当の教員に認め、兄の府立高校 1 年生の男子が逮捕される事件が起こった。子供たちの周囲に覚せい剤や大麻、危険ドラッグ等、容易に薬物に近づける環境が意外と広まっていることに、改めて驚かされるとともに、危機感を持ち、大人をはじめとする、子ども達を守る取組の大切さを痛感している。

そのような中、伏見区基本計画を着実に進めるため、幅広い区民の方々の御意見をお聞きする、この会議の本日の内容は、区民の皆様自らが提案し、取組む活動への支援事業をはじめ、重点戦略「融合プロジェクト」、また、京都市と京都府警本部、住民の皆様と進めている安心安全の取組等につきまして、御報告させていただく。皆様にはどうか本日の会議が実りあるものになるよう、御忌憚のない意見をお願いしたい。伏見区としましても、私、長谷川、浅野の 3 区長が先頭に立ち、皆様の思いがかたちにつながっていく、また、安心安全で住み良い伏見区のまちづくりを進めたいと思っているので、これからも御理解・御協力をお願いしたい。

## 2 委員紹介

## 3 橋爪座長挨拶

平成 27 年度第 2 回伏見区基本計画推進区民会議ということで、伏見区の基本計画に関して、御意見いただければと思う。

最近、ますます各地域、各市、各区が独自の魅力を高めなければいけないのが全国的な動きかと思う。一つには地方創生という言葉が、この間よく使われるようになった。日本中、これから人口が減少していく、少子高齢化社会の先にあるのは人口が減っていく。至る所空家が増え、人が住まない地域が出ている。なんとか若い世代の方が各地域に住んでもらえるよう、日本中の地域が競い合っている状況で、安全安心が非常に大事な取組になってくる。そして、伏見区独自の魅力を新たに住まわれる方に関わっていただくような試みがとても重要である。

一方で、「観光のまちづくり」も、もう一度しっかりと考えていかなければいけない。急な話かと思われがちだが、インバウンド、外国人旅行者が増えるのは、数年前から予測されていたことで、我々の準備ができていなかった。伏見稲荷が日本一話題になるような、テレビでしばしば取り上げられるような、観光地となったことは思いもよらないこと。予測だと、従来の観光地に人気が出ると思っていたが、意外な所に多くの方が来ていただいた。先週、オーストラリアの大使と食事の機会があり、オーストラリアの方は日本猿が好きで、長野県の猿と一緒に入れる温泉や、北関東の日本猿が料理を運んでくる居酒屋や京都では岩田山、大阪では箕面等が大変人気である。我々がオーストラリアに行くと、コアラを抱きたいと思うように、彼らは日本猿や奈良の鹿が珍しいそうで、我々には全く想定できなかった。伏見でもお稲荷様まで外国人観光客が来られ、この界限にも益々観光客が増えてくるものと予想されるが、我々は受け入れの準備が十分ではない。特に問題なのは、ホテルが足りないという点だ。京都や伏見においても、どのように新しい宿泊施設を造っていくのかが、最大の問題である。このような状況にあって、世界中で流行っているのが、インターネットで予約のうえ、各個人の自宅に宿泊する「エアビーアンドビー」である。日本

語では「民泊」という言葉が広がっている。これは旅館業法上、非常に問題があり、従来の旅館等とは違うマンション等が宿泊対象になっている。先日、右京区で取り締まりが入った件では、賃貸マンションの多くの部屋を団体客向けのホテル代わりに使っていた。だが実際は、個人と個人の契約で宿泊されているケースがあるので、この制度を作らなければならず、大阪府が日本で初めて、7泊以上の長期の滞在者のみ許可する条例を作った。京都市では、現在、条例がなく、取り締まるか、グレーのまま認めるかしかない。しっかりと考えていく必要がある。伏見区の現行の計画の前の計画から、課題としてはホテルがなく、宿泊がもっとできるまちにしてはどうかという議論が出ており、観光客が増えるのを前提として、まちづくりも考えていかなければならない。人口減少への対応と、増える観光客への対応が大きな課題である。本日はよろしくお願ひしたい。

## 4 事務局からの報告等

### (1) 伏見区民活動支援事業について（東山課長）

・事務局より資料1の説明

<質疑応答>

**座長**

応募件数がかなり増える方向にあると思うが、審査された方からコメント・御質問等あるか。

**加藤委員**

お話があったように、一つは高齢化をテーマにした地域の見守りも含めた取組が同じ地域課題になっているのが、今回の審査で非常にはっきりしてきた。これから非常に重要なことであり、とりわけ元気で長生きできる健康長寿、かつ、2025年を目標に厚労省が地域ケアの包括システムを整備していくと言っている。元気で長生きでき、お互いに支え合っている、かつ、認知症になってもその人らしく生きられる地域づくりをしていけるような、さまざま住民のプロポーズがあればいいと思う。

二つ目に、若い人が地域活動に参加していくことがだんだん減っている。こういったところにつきり取り組めるような取組がさらに増えていけばいい。仲間内で自己完結してしまう取組もあったが、後が続かないのではないかと懸念を持つ提案もあった。それらを含め、各委員が非常に熱心に議論をし、村井副座長をはじめ、公募委員の方々等、多彩な委員構成であった。多様な観点から議論をすることができ、公正な審査ができたと考えている。

**座長**

次年度に向けての考えるべきことなどはあるか。

**岩井委員**

支援事業に基づき次のステップへ進める、展開される事業を支援するのがこの事業の趣旨である。いろいろな申請のなかで、若者がしっかりと21世紀を担う子供たちを育ててもらおうような取組をもっと積極的にしてもらいたい。また、このような事業を展開するなら、各学区で宣伝をしていきたいと考えている。

**黒川委員**

審査を通して、途中経過をどこかで見れるようなサイトや資料はあるのか。

**事務局**

常時、各活動の情報を収集し、区民しんぶん等で発表している。ただ、随時情報の確認まではできていない。また、ホームページ上では催しをする時に作る、ポスターやチラシをPDFファイルで掲載している。途中経過という上では、それだけでは不十分かもしれないが、工夫はしている。

**座長**

催しをされるときの宣伝に協力をしているということか。

**黒川委員**

審査は通ったが、最終報告だけで終わるようなところはないのか。今回は多くの団体が審査を通っているが、中身が全くないような団体等、差ができていないのか。審査を通した責任もあるので、途中経過を知りたい。

**座長**

それは最終報告ではなく、途中で報告がほしいということか。

### 黒川委員

最後までだと報告書だけで終わってしまう。果たして審査の時に提案したことを実施したのかだけでも知りたい。

### 事務局

御指摘いただいた点は、課題だと思っている。今後は年度途中で採択した団体を集めて、情報共有を含めた報告会をする等、可能なことを考えていきたい。

### 座長

33の採択団体があれば、大変かもしれないが、区の担当の方にはなるべく現場に行っていたきたい。

### 村瀬委員

このような事業にとっても興味を持っている方がたくさんいる。申請の仕方が上手な団体がいるが、自分たちの自己満足だけでされている団体もある。地域に広めるなら、実際に地域活動に取り組んでから申請してもらいたい。実行できるかはわからないが、いい計画だからお金が出るという考えでは、お金の無駄遣いになる。実行性のある活動をしてから申請してもらいたい。

### 座長

次年度の募集の在り方等にも、御意見を反映いただければと思う。

## (2) 伏見区基本計画重点戦略「融合プロジェクト」について（東山課長・吉川課長・田中課長・大江課長）

・事務局より資料2の説明

### <質疑応答>

#### 座長

事務局メンバーとして委員の方にも入ってもらっている。補足・説明等あればお願いしたい。

#### 谷内口委員

私もエコライフプロジェクトに参画させてもらっている。エコロジーセンターはエコライフを提唱しているが、なかなか私どもだけでは、全市に向けて発信しなければならず、エコのチャンネルでしか届かないところがあるが、区のトップにある事業で活動することで、我々だけでは届かないところを巻き込んでいけるかたちになっているのがありがたい。エコロジーセンターも舞台にしながら、うまく活用いただければと思う。

助成金事業の中にも環境に関わることもあり、取材をし、発信をするのも一つのテーマであるので、取材対象にしながら、団体を応援するのも一つの手かと思った。さらに、私どもはエコ学区事業で学区単位の地域の活動を応援するかたちもある。地域で一所懸命されていても、発信の手が回らないこともあるので、エコライフプロジェクトのようなところで取材して発信できればいいと思っている。

エコロジーセンターでも以前、助成金事業があったが、現在は助成金を出していない。そのかわり、活動したい方は、伏見区であれば区民活動支援事業に申請してはどうかと周知し、連携できればと思っている。

おとなだいご塾に来られている方は関心度も高い。助成金をとるようなかたちでうまく次の活動につなげ、エコライフも融合していければいいと思う。おとなだいご塾についてと、どのようなきっかけで来られたのか聞きたい。

#### 事務局

醍醐地域の町内会や地域活動をされている方、若い方にも参加いただくため、大学生を中心にボランティア活動を熱心にされている団体に声をかけたり、あるいは、まちづくりアドバイザーで大学で講座を持っておられる方の学生さんに参加いただき、話を聞いてもらい、繋がりをつくらせてもらった。エコライフプロジェクトにも是非、実践活動につなげるような場を提供いただければと思うので、また御相談させていただきたい。

#### 谷内口委員

積極的に周知し、うまくつながってるということか。我々も勉強させていただきたい。

### 三木委員

伏見をさかなにざつくばらんでは、伏見の皆様が自分の気持ちや、気づきを最初に持ち込める場所として、広く認知されていると思う。問合せも年々増えている。伏見の皆様を対象に区とつながれることに、高い関心を持たれている。伏見をさかなにざつくばらんの団体の中で、活動が高度になってくると、次はどこで活動すれば良いのか迷われる団体もある。どのように支援するのが重要ではないかと思っている。

### 西田委員

伏見をさかなにざつくばらんに参加し、子育て世代や学生の方等、新しいメンバーを取り込む工夫をしているところである。参加者のニーズ把握をするため、アンケートを取ろうと考えている。その回答をふまえ、ステップアップし、もう少し開かれたものにしていくため取り組んでいる。

### 座長

若い方に参加していただきたいという意見がいろいろなところ出ている。

鴨川運河会議は今後どのようにしていくのか。

### 事務局

鴨川運河会議としては終わり、自主的に活動を続けている。支所は支援をするだけになっている。

## (3) 世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動について（東山課長）

・事務局より資料3の説明

<質疑応答>

### 座長

御質問はあるか。世界一と掲げているので、頑張らないといけない。

伏見稲荷の作法ガイドについて詳しく伺いたい。外国人の方々が神社の作法や、ごみ等の課題があり、作法ガイドを作られたと聞いている。

### 事務局

作法ガイドマップは、左京区の造形芸術大学と連携した取組で、英語、中国語、スペイン語の3カ国語で作っている。ごみの問題、交通の問題、トイレの3つにしぼり、作法を漫画で紹介している。伏見稲荷大社の作法マップであるので、参拝の仕方や、稲荷大社の歴史も記載している。主には、京阪の伏見稲荷駅、JRの稲荷駅、大きなホテルや観光案内所等に置いており、個人で観光案内されている方にも渡している。

### 座長

何万部用意されているのか。

### 事務局

スペイン語は1万部であるが、英語、中国語は5万部用意している。

### 座長

市役所の予算であるのか。

### 事務局

安心安全の予算である。

### 座長

他に何か御意見・御質問あるか。

### 黒川委員

世界一安心安全・おもてなしのまち京都は、世界一安心安全だからおもてなしが安全にできるということか？伏見に外国人観光客を呼び込もうという趣旨か。住民にとっての安全を考えてほしい。

### 座長

安心安全とおもてなしが1つになっているのかということか。

### 事務局

居住者も含め、京都市は観光客も増えているので、観光客に対してもおもてなしの心を持って、安心安全な観光をしてもらうことである。

## 座長

地震等あった場合に、外国の方々は避難場所等がわからない。基本的には、安心安全を市民の方に加えて、観光客もということで、まずは市民の方にとって安心安全になるように考えてもらいたい。

## 黒川委員

羽束師は向日町警察署の所轄であるが、久我橋の近くに人が倒れていて、伏見署に電話したところ、全て話したあと、向日町署に連絡するよう言われたという話を聞いた。住んでいる住人にしたら、どこの警察を頼りにすればいいのか。この会議で述べたことは、向日町署に意見が通るのか。

久我の杜の交番も建て替えなのか、使えない状態になっている。住民にとっては駆け込むこともできない。

## 座長

京都府警の問題であるが、区役所も府警と連携していかなければいけない。

## 黒川委員

表向きには華々しくやっているが、住んでいる者からすれば小さいことが邪険に扱われているように思う。

## 事務局

直接の回答にはならないが、そもそも推進運動は京都府警と京都市が協定を結び、伏見区においては、推進組織のなかに、伏見署、山科署、向日町署の警察署長、区のほうでは3区長、市民の代表者として各ブロックの代表者が入っている。連携を深めることも一つの目的とし、現実に向日市とは伏見区と連携した事業を取り組んでいる。特に、安心安全の取組については、お互いの事業の視察をし、共に取り組んでいる。御意見については、府警、警察署のほうにも情報提供したい。

## 座長

公開の会議であるので、しっかり届けてもらえると思う。

## 副座長

社会的な常識で人が倒れていれば、110番するか、救急に電話するだけでいいのではないのか。何のために警察に入ってもらい推進運動しているのか。

## 事務局

私どもも区民の方々のニーズやお問い合わせに区のことであればしっかり対応し、それ以外であれば、関係各所に連絡し、しっかり引き継ぎしなければならない。向日町署、府警にお伝えしたいと思う。

久我・羽束師については、私どもが伏見警察と連携しているように、向日町警察署とも取り組んでいる。警察署とタッグを組むのは今回が初めてで、慣れないこともあるが、警察署の取組が全て区役所と関わっているわけではないが、区役所側も積極的に動いている。啓発の取組等、お話をさせてもらうことを増やしている。

## 村瀬委員

運動会で怪我人が出た際に、警察が原因究明をするため、救急車の発進を止めていることがあった。一番に考えるべきは人命ではないのか。

## 副座長

怪我している方を搬送するのが第一ではないのか。

## 座長

事務局の方でももう少し詳しく状況を伺い、対応してもらえればと思う。

## 村瀬委員

伏見は観光客がすごく多い。伏見の稲荷学区に住んでいる方は苦勞している。中国人が多いことは結構だが、行儀が悪く、掃除が大変である。来てよし悪しが今の実情である。

## 岩井委員

伏見稲荷大社への観光客は今とても多く、作法マップガイドは5万部あると聞いたが、どの期間で5万部を考えているのか。醍醐地域の春のコミュニティバス推進のチラシを作ったが、3万部が3、4日でなくなった。多くの方が来られれば、5万部はすぐなくなるのではないのか。徹底して外国人に作法マップを広げていくのが大事ではないか。

## 事務局

今年度の予算として5万部用意しているが、なくなればすぐ作れるような体制がある。今のところ全てなくなっているはいない。

## 座長

なくなればすぐ刷ってもらわないといけない。伏見稲荷だけでなく、今後どこが観光地になるかわからない。受け入れの仕方も考えなければならない。

## 朴委員

韓国人の観光客もすごく多いので、韓国語も考えてほしい。

## (4) その他

### ①伏見区災害ボランティアセンターの補助に関する協定書締結調印式について（吉川課長）

・事務局より資料3の説明

#### <質疑応答>

#### 中野委員

外観は既にできている。長さが400m、高さ16m、幅が20mである。ここに伏見区社協の倉庫が一つと、我々地元の倉庫も設置してもらえる。災害の時に我々住民が避難できるような協定を結びたいと思っている。

府立消防学校と市立消防学校が統合されると聞いている。府立消防学校の本館は、昔の淀中学校の建物をそのまま使っており老朽化しているが、地元の避難場所になっている。老朽化し心配があるので、倉庫を避難場所として使いたいと考えている。地元にとっても利益になるような協定を結びたい。

#### 座長

避難場所の老朽化が心配であるということか。

#### 中野委員

仮に本館が取り壊される場合に、その間の避難場所はどうすればいいのか。

#### 副座長

今後の在り方として、地域の安全に使えるよう、もう一度京阪電車と連携していかなければと思う。

#### 座長

南三陸で小学校の避難場所で多くの命がなくなった。避難場所指定の防災施設の防災性を高めて、建て替え等の期間もどうするのかを考えてもらいたい。

#### 中野委員

主だったことは市の消防学校のほうに相談して、ある一部の機能は残すということらしいが、詳しいことはわからない。

#### 久保委員

すでに京都市も防災危機管理室を通し、京都府に伝えている。統合されれば、なくなるのではないかと、廃止されるのではないかと非常に危惧されての話であるので、今、消防学校が果たしている機能についても配慮してもらいたいと京都府に話をしている。

#### 座長

くれぐれもよろしくお願ひしたい。

## (5) 意見交換

### 座長

前回の会議でユニークなまちづくり活動をしている団体の紹介をということで、伏見いきいき市民活動センターの三木委員と醍醐いきいき市民活動センターの内野委員に最近の活動状況を説明してもらいたい。

### 三木委員

Uttocoに沿って団体を紹介したいと思う。

団体としては文化やスポーツ、地域主体の活動、あるいは伏見をさかんにぎっくばらんからの活動

や大学生の活動等々紹介させていただく。

最初に、「伏見クラブ」は区民活動支援事業で採択され、伏見のラグビー文化等々に関して、ラグビーを通して子供の発育や発達、あるいは子供達を指導する際の大人の姿をどう見せていくかをテーマに活動している。

また、「ピアーズンピアーズ」は、民間の市民活動を通して、さらに新しい市民活動を増やしていく循環を生み出しておられる。

区民活動支援事業で採択され、中書島の賑わいを取り戻すため「弁天祭」に取り組みましたインタビュー記事もものせている。

伏見をさかんにざっくばらんから生まれた「和・は・は・ま〜じゃん」は麻雀を通して、認知症やシニアの居場所をどうつくっていくかの活動をされている。

今年初めて御香宮神社で開催された、若手社会人が集まりつくった、「伏見祭」という、世代交流の取組は一日で1,500名程度が参加され、大きな取組となった。若手の皆様の新しい動きに対して、どのように伏見のこれまでを伝えていくか、また若手がチャレンジすることを受け入れていけるのも伏見の良さだと思う。

大学生の取組では、伏見有機農業の紹介やおばあちゃんのおにぎりを一緒に販売し、一人親の家庭の子供達と一緒に食卓を囲む活動等している。

全体を通して、少し前までは外国人観光客に対してのアプローチが多かったが、最近の相談内容としては子供を取り巻く問題や、環境に対してのアプローチが年々増えている。高齢化社会ということで自治会を続けられず辞めたいという相談や、地域力をどう維持していくのか、市民活動などで元気な層のみなさんとなつながら、地域が地域であるかたちをどう維持していくのが今後の課題になっていくと思う。少なくとも元気な団体が伏見区内に生まれている状況であると思う。

## 内野委員

当センターからは2つの団体を紹介したいと思う。

一つ目は、山科・醍醐在住のママさんで立ち上げられた、グループ「きママっず」は、子育て世代を応援していくグループで、現在、児童館や当センターで活動している。ご自身が子育てで体験された悩みを活かして、孤立した子育てをされているママさんに、外に出るきっかけを作り、気ままに集まれる居場所を作りたいという思いから、プレママ&親子のほのぼのサロンを主体的に当センターで運営している。メンバーの方はおとなだいご塾に去年参加され、当センターを受け皿と一緒に支援をさせていただいている。今現在はご自身が講師となり、講座を開催されたり、交流サロンを開いたり、使わなくなったおもちゃを持ち寄り「ものもの交換会」というものも開催されている。今現在も子育てしながら、活動されている。

もう一つは、当センターで開催しているまちづくりの第一歩を踏み出してもらうため、対話と交流の場として開催している醍醐サロンの参加者自身で立ち上げられた、「醍醐いき活プロジェクト」である。高齢者や生活弱者と言われる方々が生活しやすいまち、安心安全のまちについて先進的な取組をされている醍醐地域で学んでみようという趣旨で活動を始められた。地域を知る目的で、高齢者や生活弱者の方の目線でまちを歩き、話し合いを繰り返されている。実際に取組をされている地域の方にお話を聞き、その中で自分たちにできることを考え、住む人に優しい、ゆくゆくは「生活便利マップ」を作り地域にコミュニティツールの一つとして活用していければという話を現在している。

紹介した団体は、市民の方々が主体となり、運営されている。ゆくゆくは醍醐地域においても、支援事業に申請されるように、サポートしていければと考えている。

## 座長

おやじの会に関しても少しお話していただきたい。

## 小倉委員

「南浜地域おやじの会」では毎月一回こども火の用心を開催している。南浜地域を子どもたちが標識を持ち、自分たちで標語を考え、30分間をかけて地域を回っている。主に目的として、日ごろ地域の人にお世話になっている子どもたちが、少しでも地域の方にお返しできないかと考えたのがこども火の用心である。今年で9年目を迎えたが、続けていくことが一番重要なことで、先月も区役所の方2名に参加いただき、安心安全のまち京都のぼりを立て一緒にまわってもらった。火の用心は、防火

が主な役割であるが、地域を回ること、外からの犯罪者を入れない抑止力にもなるので、警察の方から続けてほしいという声もいただいた。子ども達が自己有用感を持ち、大人になれば地域活動にも自然と育んでいけるのではないかと考えており、この活動は続けていきたい。

#### 谷内口委員

エコ学区事業について少し御紹介させていただきたい。先進的なモデル学区のあと、全市展開し、今年で3年目になる。今213程の学区が宣言されている。地域で地道にされているところを表彰する制度である。いきセンさんが他の行政区との担い手となって、地域の方と違う切り口で支援し、連携しているパターンもある。またいきセンさんとも一緒にできればと思う。おやじの会のおやじ層の方とも一緒にできればいいと思う。

現在、環境ボランティアを募集している。地域のテーマとは外れてしまうかもしれないが、地域の方が環境について行う活動を支援している。

エコロジーセンターの広報誌で取材したところが、活躍いただき還元することができればと思っている。再生可能エネルギーを導入するような支援も行っている。

なかなか環境だけでは地域課題等、乗り切れない部分をエコと地域防災、エコと安心安全というかたちで連携していければと思う。またいろいろなかたちで発信できればと思う。

#### 座長

小水力発電の支援はもう終わっているのか

#### 谷内口委員

募集期間が短く、年度内にやるとなると相当な調査になり、予算がかかるので、来年度どうするか検討中である。

#### 加藤委員

大事な取組をされていると思う。

一つは地域で地味ではあるが、大事な取組をされている所がたくさんある。基本は、地域の助け合う力を高めていくことが大事である。地域で地道に活動されている方で、区民活動支援事業の書類を書くのがしんどかったり、億劫であったりする方がいる。是非とも役所の方からアプローチし、書類を書く等、お手伝いができないものか。

#### 村瀬委員

教えてもらわなければ、止めてしまう年代の人が結構いる。地道な活動をされる方でも、事務的なことができない方がいる。

#### 座長

申請書類の書き方をお教えするとか。

#### 加藤委員

役所がちょっと背中を押してもらいたい。

もう一つは、一部の観光客の中にはマナーを守れない方もいる。できるだけソフトに、漫画などを使い、マナーを守ろうというメッセージも必要ではないかと思う。

#### 馬場委員

お知らせになるが、京都市が主催されている区民活動支援事業の未来まちづくり100人委員会で第5期の参加者グループで、「京らくらくプロジェクト」というチームがある。ユニバーサルデザインの考え方があったり、どういうものかを、わかりやすく色々な年代に広められるツールとして双六を作る活動をされている。子供たちが描いた絵を双六に使いたいという願いがあり、図書ボランティアをしている関係で、少し力添えさせてもらった。実物はまだ見ていないが、子ども達に使ってもらう会を催したり、これから広めていきたいと言われている。いろいろなところで活用していただければいいと思う。今までも、作ったけれど使われていないものもたくさんある。今後、活用していただけるようお知らせをさせてもらう。

#### 座長

双六は今年度作られているのか。

#### 馬場委員

第5期のこの活動のなかで作られ、完成した報告があった。インターネット上で無料ダウンロード

し、使えるものらしいので、是非気にかけていただきたい。

## 5 村井副座長挨拶

ご苦労様です。色々な話がでたが、この会議の趣旨は、「みんなでつくる住むまち伏見」ということで、率直な思いとしては、事前に話の中身を整理し、十分、橋爪先生と事務局とで連携を取り、結論を出すためにも意思統一してもらいたい。

私事ではあるが、全国で6つの自主防災が表彰され、大臣から直接賞状をもらい、伏見のまちをしっかりと守ってもらえるようお願いしたいと声をかけてもらった。今後も、「みんなでつくる住むまち伏見」を作っていくため、頑張っていきたいと思うので、よろしくをお願いしたい。

## 6 閉会